

株主メモ

| | |
|--------------------------------------|---|
| 決算期 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 配当金受領 株主確定日 | 3月31日および中間配当を行うときは9月30日 |
| 株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関 (同連絡先) | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL(0120)232-711(通話無料) |
| 公告方法 | 電子公告により、当社WEBサイトに公告いたします。但し、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に公告します。 |
| ご注意 | 1. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。 2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。 |

将来予測に関する記述に関するご注意

本株主通信の将来予測に関する記述および客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向、為替レートなどに関わる様々な要因により、記述されている事業予測とは異なる可能性があることをご承知おきください。

コムチュア株式会社
COMTURE CORPORATION

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F

Phone:03-5745-9700 Fax:03-5745-9715

ホームページのご案内

コムチュア IR

<http://www.comture.com/ir/>

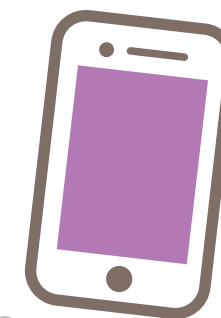
当社IR情報はここをクリックしてください。



コムチュア株式会社
証券コード：3844

第29期 中間株主通信

2012年4月1日 >>> 2012年9月30日



ささやきをカタチに。
企業のIT化を実現。

**クラウド時代を コラボレーションで
リードするコムチュア**



COMTURE
LEAD THE FUTURE

コムチュアストーリー

—向会長CEOに聞くコムチュアの強みと成長戦略

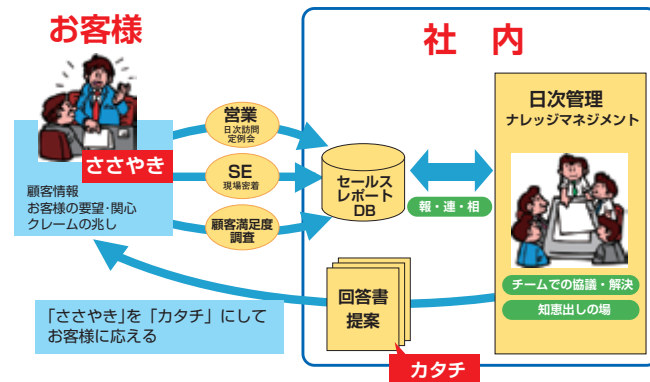
Q コムチュアの強みは何であると考えていますか？

A 第一に「先見力」、次に「実現力」だと思います。

例えば、今や不可欠なインターネット技術(JAVA)への取り組みが早かったことがあります。2001年頃、日本にはインターネット技術について教えられる人があまりいませんでした。そのため当社は、その教育機関があったインドで社員2人を研修させました。

その後、リーマンショック後の景気後退の中で、当社は、ネットワーク経由でソフトウェアを提供するクラウドにいち早く注力し、現在の好業績につながっています。そして、中期経営ビジョンとして、「クラウド時代を“コラボレーション”でリードするコムチュア」を掲げています。

加えて、当社が特に心がけているのが、お客様の「ささやきをカタチに」することです。すなわち、現場で吸い上げたお客様の要望や関心(ささやき)を社内でも協議、解決し、新たな提案というカタチでお客様にお届けする「実現力」です。—これが第二の強みであり、先見力とともに成長の原動力となっています。

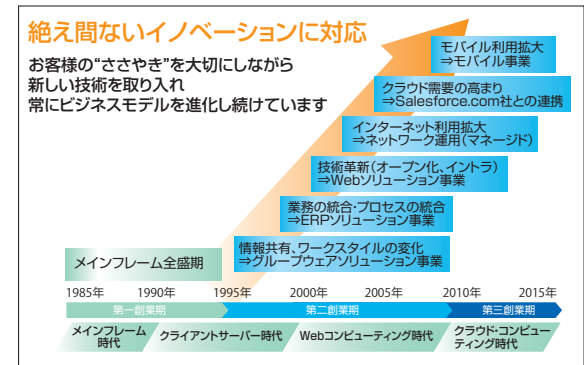


Q バブル崩壊など3度の景気後退の中でも、コムチュアが急成長を遂げてきた理由を教えてください。

A 常に新しい技術や新しい風、流れを敏感に察知し、イノベーションにチャレンジしてきました。

バブル崩壊後の厳しい事業環境から学んだのは、「得意分野を持つ特長のある会社でなければ生き残れない」ということでした。そうした中で、営業情報などの企業内情報共有システムを扱うグループウェア、基幹業務システムを扱うERP、Web、ネットワークサービスという4事業に着目し、現在まで各事業が成長してきました。

バブル崩壊、ITバブル崩壊、リーマンショックと経てきた中で私が学んだのは、「景気変動と技術革新はリンクしている」ことです。すなわち、景気後退期には新たな技術革新が求められ、企業はその時代の要請に応えなければなりません。当社は、厳しい事業環境の中で、常に新しい技術や新しい風、流れを敏感に察知し、イノベーションにチャレンジしてきました。



先に述べたインターネット技術の習得やクラウドへの取り組みは、その実例です。こうした取り組みのカギが、「コラボレーション(連携)」です。コラボレーションには、技術と技術、企業と企業など、さまざまな連携があります。当社は、こうしたイノベーションに向けた多種多様なコラボレーションをリードするIT企業を目指しています。

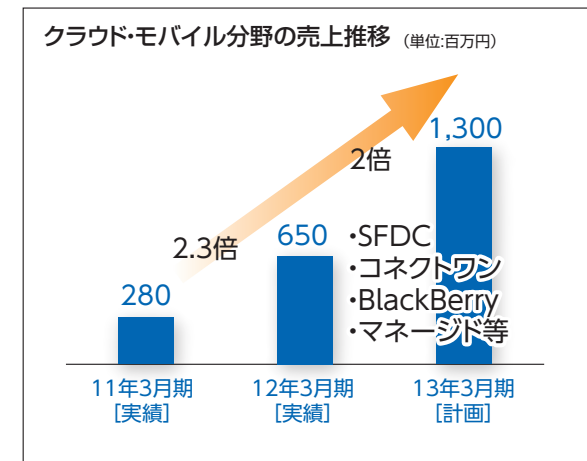
Q さらに成長に向けた取り組みを聞かせてください。

A 今後も急成長が見込まれるクラウドやモバイルに注力することで、さらなる成長を目指していきます。

当社は今後の数年間を「第三創業期」と位置づけ、クラウド&モバイル関連ビジネスを軸に持続的な成長を図っていきます。ある調査によれば、2011~2016年の国内のクラウドサービス市場、モバイル市場の年平均成長率は、各々38.8%、51.5%と予測されています。

こうした中、当社はいち早くクラウド&モバイル事業に取り組んできました。米国セールスフォース・ドットコム社と連携したクラウドサービスをはじめ、いつでもどこでもスマートフォンなどから安全に社内へアクセスできるモバイルサービス、クラウドデータセンターや当社データセンターを使って24時間365日遠隔監視を行うマネージドサービスなどを提供しています。

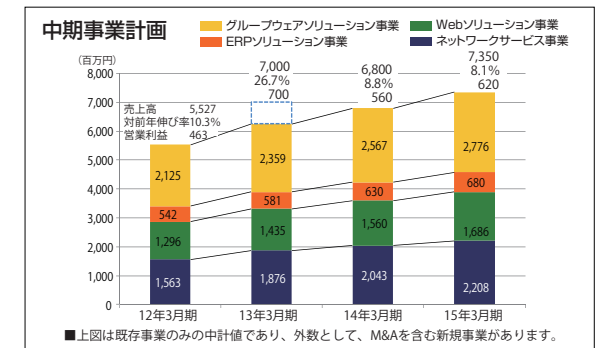
2011年3月期頃から成果が出始め、2012年3月期には前期比2.3倍の売上高6億5千万円を達成しました。また、2013年3月期の売上高は、前期比2倍の13億円を予想しています。



Q 最後に株主へのメッセージをお願いします。

A 中期事業計画は前倒しの実現を見込み、今期中の見直しを予定しています。

通期の業績は、7月27日に期初予想を上方修正し、売上高70億円、営業利益7億円と過去最高を見込んでいます。また、1株当たり当期純利益は、2012年3月期の48.40円から今期は81.33円と予想しています。



この上方修正により、2012年3月期から2015年3月期までの中期事業計画は前倒しで達成する見込みであるため、今期中の見直しを予定しています。売上高100億円の早期実現が視野にある現在、M&Aによる新規事業も含めて、200億円企業へのさらなる成長を図ってまいります。



代表取締役会長CEO 向 浩一

コムチュアが提供するクラウド&モバイルサービス

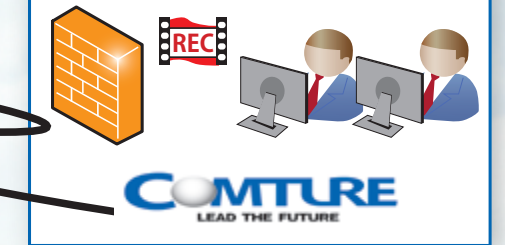
クラウド&モバイルによる

「ビジネス・スタイルとワーク・スタイルの変革」

ソフトウェアをネットワークを通じてサービスとして利用する「クラウドコンピューティング」。いつでも、どこでも社内とつながる「モバイルソリューション」。「ビジネス・スタイルとワーク・スタイルの変革」を実現するコムチュアのクラウド&モバイルサービスです。



当社データセンタ



いつでもどこでも モバイルサービス

外出先から、いつでもメール確認、スケジュール共有、アドレス帳の確認、決裁書の承認が可能

【お客様導入事例】

大手の金融機関様では、管理職向けに社外から社内システムにアクセスする仕組みを導入いただいています。

外出先や出張先から、個人所有のスマートフォンで社内に届いたメールの確認や返信ができます。お客様の業務効率の向上の実現をサポートしています。



より早く便利に セールスフォース・ドットコム社 との連携サービス



セールスフォース・ドットコム社の最先端クラウドプラットフォーム、Force.com上で当社システムを提供

【お客様導入事例】

数千を超える施設の管理を受託されているメンテナンス会社様では、お問い合わせ管理の仕組みを、それまでの社内環境から当社の提供するクラウド環境に移行されました。全てのお問い合わせの対応状況が、漏れなくスピーディーに共有されるようになりました。

11月13日 セールスフォース・ドットコム社との共催セミナー開催



セールスフォース・ドットコム社との共催で、「お問合せ対応のスピードアップで、お客様満足度の向上!」セミナーを開催しました。定員20社のところ、定員を上回るお申し込みをいただき、たいへん盛況なセミナーとなりました。

安心安全 マネージドサービス

当社監視センタから24時間365日集中監視 障害発生の際は迅速に対応

【お客様導入事例】

大手オフィス用品メーカー様で提供されている、エコ活動推進システムを、当社がクラウド環境上に作成し、導入後の運用監視サービスを提供しています。

24時間365日集中監視を行い、お客様への障害連絡、原因切り分けと影響範囲の特定、復旧手順と現地対策などの初動対応をサポートしています。

財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

単位:百万円(未満切捨)

| 科目 | 当中間期末 平成24年9月30日現在 | 前期末 平成24年3月31日現在 |
|----------------|-----------------------|---------------------|
| 【資産の部】 | | |
| 流動資産 | 2,662 | 2,423 |
| 固定資産 | 954 | 997 |
| 資産合計 | 3,616 | 3,420 |
| 【負債の部】 | | |
| 流動負債 | 936 | 891 |
| 固定負債 | 147 | 149 |
| 負債合計 | 1,083 | 1,041 |
| 【純資産の部】 | | |
| 株主資本 | 2,537 | 2,379 |
| その他の包括利益累計額 | △ 12 | △ 5 |
| 純資産合計 | 2,533 | 2,379 |
| 負債・純資産合計 | 3,616 | 3,420 |

連結包括利益計算書

単位:百万円(未満切捨)

| 科目 | 当中間期 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日 | 前中間期 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日 |
|----------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 少数株主損益調整前中間純利益 | 223 | 66 |
| その他の包括利益 | △ 6 | △ 23 |
| 中間包括利益 | 216 | 43 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る中間包括利益 | 216 | 43 |
| 少数株主に係る中間包括利益 | - | - |

連結損益計算書

単位:百万円(未満切捨)

| 科目 | 当中間期 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日 | 前中間期 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日 |
|----------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 売上高 | 3,351 | 2,400 |
| 売上原価 | 2,610 | 1,920 |
| 営業利益 | 361 | 115 |
| 経常利益 | 365 | 134 |
| 税金等調整前中間純利益 | 365 | 131 |
| 少数株主損益調整前中間純利益 | 223 | 66 |
| 中間純利益 | 223 | 66 |

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円(未満切捨)

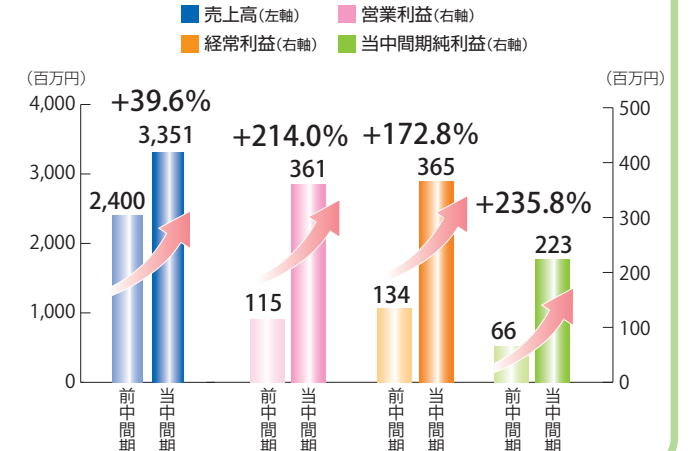
| 科目 | 当中間期 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日 | 前中間期 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日 |
|---------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 404 | 177 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 96 | △ 203 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 65 | △ 51 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 436 | △ 77 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,141 | 1,285 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 1,578 | 1,208 |

ポイント2

前中間期を大幅に上回る売上高と利益を達成

クラウド&モバイル事業を中心に当社のビジネスは堅調に推移しており、当中間期の業績は好調を持続しました。連結業績は期初予想を上方修正した7月27日公表の予想値をさらに上回り、売上高が前中間期比39.6%増の33億51百万円、営業利益が同214.0%増の3億61百万円、経常利益が同172.8%増の3億65百万円、当中間期純利益は235.8%増の2億23百万円となりました。

売上高・営業利益・経常利益・中間期純利益の推移

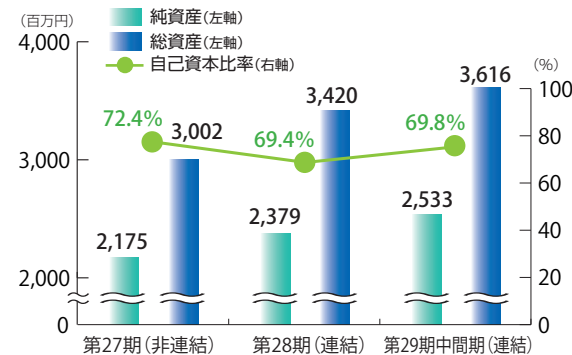


ポイント1

有利子負債ゼロの健全な財務体質

当中間期の負債10億83百万円のうち、買掛金、未払費用、未払法人税等、賞与引当金の合計で70%以上の7億64百万円を占めています。当社は、有利子負債がゼロであり、自己資本比率が69.8%と高水準であることと併せて、健全な財務体質を誇っています。

純資産・総資産・自己資本比率の推移



セグメント別業績

グループウェアソリューション事業

売上高は前中間期比24.5%増の12億38百万円、売上総利益は同28.9%増の2億97百万円になりました。クラウド&モバイル事業の拡大に加え、既存のお客様との取引を深耕できたことにより、売上・利益とも大幅に増加しました。

ERPソリューション事業

売上高は前中間期比29.9%増の3億11百万円、売上総利益は同59.6%増の87百万円になりました。当中間期はお客様企業のシステム投資が活性化しており、SAPビジネスを中心に業績を拡大しました。

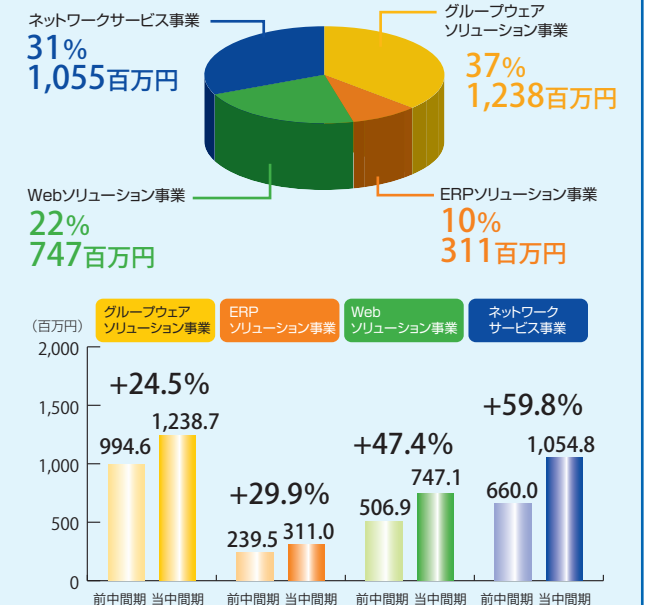
Webソリューション事業

売上高は前中間期比47.4%増の7億47百万円、売上総利益は同133.9%増の1億66百万円になりました。セールスフォース・ドットコム社との連携ビジネスが同3倍となるなど、クラウド&モバイル事業の拡大が当事業の伸びをけん引しています。加えて、インターネットバンキングをはじめとする金融関連ビジネスも拡大しており、前中間期に比べて大幅に増加しています。

ネットワークサービス事業

売上高は前中間期比59.8%増の10億55百万円、売上総利益は同53.2%増の1億91百万円になりました。2012年1月に実施した事業譲受との相乗効果で、売上・利益とも大幅に増加しました。

当中間期売上高構成比



IR 伝言板



Q 個人投資家向けにどんなIR活動を行っていますか？

A 当社はIR活動に力を注いでおり、個人投資家の皆様に向けてはIR説明会を数多く開催しています。当中間期には次のような活動を実施しています。ぜひご参加ください。

- 4/10 ラジオNIKKEI「夕焼けマーケット」出演
- 7/1 個人投資家向けIR説明会(札幌・ラジオNIKKEI)
- 8/30 個人投資家向けIR説明会(東京・モーニングスター)
- 9/19 個人投資家向けIR説明会(東京(当社本社)・楽天証券)
- 9/20 個人投資家向けIR説明会(名古屋・モーニングスター)
- 9/29 個人投資家向けIR説明会(東京・大和証券)
- 11/15 ラジオNIKKEI「投資知識研究所」出演
- 12/14, 15 野村IRフェア参加(予定)(東京・東京国際フォーラム)
- 2/15, 16 東証IRフェスタ参加(予定)(東京・東京国際フォーラム)



個人投資家説明会

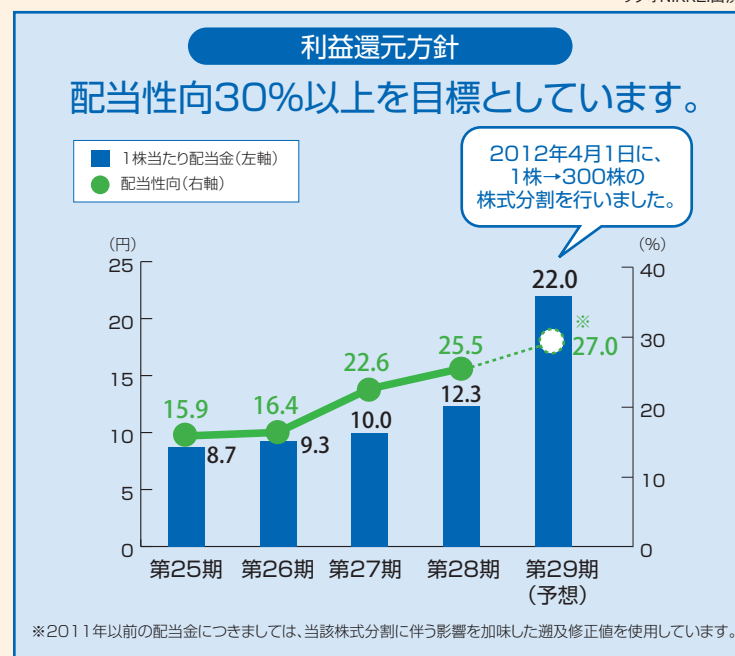


ラジオNIKKEI出演

Q 株主還元について聞かせてください。

A 当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策の一つと位置づけています。利益配分については、将来の事業展開と経営基盤の強化に必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針にしており、配当性向30%以上を目標としています。

今期においては、期初には1株当たり15円の期末配当を予定していましたが、当中間期における好調な業績を受けて、株主の皆様への利益還元の充実を図るため、中間配当同11円、期末配当同11円、合計で同22円といたしました。今後さらなる増額とともに、配当利回りも高めることで、さらなる利益配分に努めてまいります。



会社データ (2012年9月30日現在)

会社概要

| | |
|--------|--|
| 商号 | コムチュア株式会社 英文会社名:COMTURE CORPORATION |
| 本社所在地 | 東京都品川区大崎一丁目11番2号 |
| WEBサイト | http://www.comture.com/ |
| 設立年月日 | 1985年1月 |
| 資本金 | 3億890万円 |
| 従業員数 | 680名 |
| 営業所 | 三田センタ、大阪営業所、新橋センタ、 横浜テクニカルセンタ |

取締役および監査役(2012年9月30日現在)

| | |
|------------|-------|
| 代表取締役会長CEO | 向 浩一 |
| 代表取締役社長COO | 大野 健 |
| 常務取締役 | 関本 正一 |
| 取締役 | 細川 琢夫 |
| 取締役 | 奥田 兼三 |
| 監査役 | 齋藤 仁男 |
| 監査役 | 田村 誠二 |
| 監査役 | 和中 新一 |

株価チャート



大株主の状況

| 株主名 | 所有株式数(株) | 所有比率(%) |
|-------------------------------|-----------|---------|
| 有限会社コム | 1,590,000 | 30.28 |
| 向 浩一 | 828,000 | 15.77 |
| コムチュア社員持株会 | 325,300 | 6.19 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 150,000 | 2.85 |
| エヌ・ティ・ティ・データ・ ジェットロニクス株式会社 | 150,000 | 2.85 |
| TIS株式会社 | 120,000 | 2.28 |
| 大野 健 | 90,000 | 1.71 |
| 日本トラステイサービス信託銀行株式会社 | 59,900 | 1.14 |
| 株式会社SBI証券 | 36,400 | 0.69 |
| 高橋 健一郎 | 35,000 | 0.66 |

株式の状況

| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 17,400,000株 |
| 発行済株式総数 | 5,250,000株 |
| 株主数 | 1,717名 |